えがお de 江南教室　　第６号　令和５年 10 月 10 日

先週新たに５名が入級し、計 10 名で賑やかに 10 月をスタートしています。
今号では、国による学校生活の違いについて考えます。当教室のタガログ語サポーター堀さんのコラムもお楽しみください。

国による学校生活の違い

ある朝―
指導者：「バッグはどこに入れる？机の近くに置くと、みんながつまずくよ。」
A　　：「〇〇（母国）は自分の近くに置きました。安全だから。」
B　　：「△△（母国）もスマホを首にかけておかないと危ないです。」
ある清掃時間―
C＆D　：「先生、いつも E は掃除しない。」
E　　：「□□（母国）では男子は掃除しないんだ。」
C＆D　：「えー！みんなでするのが当たり前でしょ！」

子どもの出身国によりさまざまな文化や習慣の違いがあり、多国籍の子どもが集う江南教室ではこうしたやり取りが日常的です。学校生活においても日本と「普通」が異なることから、髪型や持ち物等禁止だと知らずにしてしまうことはある意味無理もないことです。
そのため、保護者や子どもから出身国の学校の様子についてまず聞き取っておくことが大切です。 当教室では、今年度２学期より、通級生に対して google フォームでのアンケートを始めました。（表 1,2 参照）
また、上記のようなやり取りから発展した言い合いは「なぜ？どうして？」を考えるチャンスと捉え、頭ごなしに「日本ではこうですよ。」と指導するのではなく、丁寧な話し合いを心がけています。このような疑問を持ったときこそ、相手の差異を認め、日本の学校生活に慣れるよい機会となるからです。
その他、母国で未経験の学習内容を把握し、在籍校でのハードルを少しでも減らすように、必要となる学用品を紹介したり学級活動の中で体験活動を組み入れたりしています。

【表１】母国の学校で許可されていたこと（回答数９）

スマートフォン	5	お菓子	5	化粧	2
お金	9	ピアス	3		

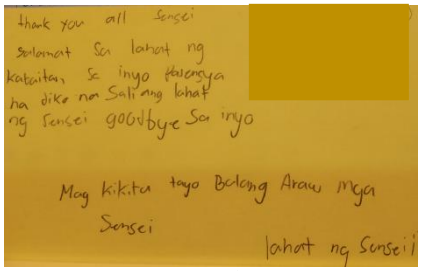
【表２】母国の学校で学習した内容（回答数９）

水泳	0	音楽鑑賞	4	コンピュータ	3
持久走	2	調理実習	1	理科の実験	4
リコーダー	1	裁縫	0	木工	1
合唱	0	ミシン	0		

フィリピン人のホスピタリティ　～タガログ語サポーター　堀　愛さん

日本人の“おもてなしの精神”は海外の人からもよく称賛されていますが、フィリピン人のホスピタリティも素晴らしいものがあります。初めて会った人でも喜んで家に招き入れて、生活が豊かでなくても、たくさんの食べ物でもてなしてくれます。結婚式では、招待していない友人や近所の人が来ることを見越して、たくさんの料理を準備してもてなします。日本人では想像もつかない次元の違うホスピタリティです。

そのような文化で育った子供たちと私は毎日過ごしています。修了式の日に子供たちはスピーチを行ないますが、親や家族への色々な思いを涙ながらに語る子もいます。また必ず一人一人の先生の名前を挙げて感謝の言葉を述べたり、感謝の手紙を渡してくれたりする子もいます。手紙には“Mamimis kita(I miss you)”と書いてあり、愛情をストレートに表現できる純粋な子供たちにいつも癒されています。



通級生からの感謝の手紙

“受けるより与える方が幸せ”の精神で、明るく強く生きている子供たちから、毎日たくさんのことを学んでいます。